

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 6 月 20 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 7名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	2名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870105396
事業所名 (ユニット名)	グループホーム こころ今出
記入者(管理者) 氏名	福増 美紀
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 14 日

<p>【事業所理念】</p> <p>1. 信頼 2. 和(なごみ) 3. 安心</p> <p>ご利用者・ご家族・地域のの方々・スタッフとの信頼関係を大切にし、安心して穏やかで和みのある生活を送って頂ける様支援させていただきます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○トイレ誘導時、大きな声掛けでの誘導にならない様に、利用者の近くまで行き、顔が互に見える場所を取り、さりげない声掛けを行えるよう取り組んだが、一時的に良くなったものの、耳が遠くなっている方、注意力が低下されている方への声掛けが、トイレ誘導時だけではなく、危険があると離れた所より大きな声掛けを行う事もあり、トイレ誘導時には目立たない様に声掛けにすることが難しくなっている。</p> <p>○利用者の重度化が進み、駐車場までの移動だけで疲れてしまわれる方、車での移動だけで疲れる方がおられる。又、コロナ禍となり、外出自体が難しくなっている。その為、利用者に合わせて、近所への散歩や、日向ぼっこで外気に触れるように対応している。</p> <p>○地域住民の方と連携を取りたいが、コロナ禍であり地域の行事も中止となり進んでいない。運営推進会議は文書開催となっているが、自主防災連合会会長、民生委員、地域の方1名には資料をお送りし、意見を頂いている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市内中心部から少し離れた昔ながらの住宅街の一角に、事業所は立地している。共用空間には14畳の和室があり、床の間には大きな掛け軸と壺が置かれ、住み慣れた家のような雰囲気を感じられる。また、職員と利用者が一緒になって、洗濯物干しやたたみ、清掃、食事づくりなど、家事の役割を担ってもらうことができている。さらに、コロナ禍において、外出する機会は減少しているものの、日々の事業所周辺の散歩を日課としており、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。加えて、外出に出かけることができないため、デリバリーのランチや駅弁を注文するなど、手作りの食事を調理するとともに、利用者に食事が楽しみになるような工夫も取り入れている。施設長や管理者は、利用者のできること、できないことを見極めて、一人ひとりに合った支援を職員とともに実践している。</p>
--	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	ケアプラン作成時や日々の会話の中から、その人の思いは何かを組み取るように努めている。	○	/	○	日々の暮らしの中で、職員は利用者から希望や意向の聞き取りをしている。また、家族には、面会時等を活用して、希望や意向を聞くよう努めている。さらに、介護計画の見直し時には、必ず利用者に思いや意向を聞くようしているものの、答えられない利用者も多くなってきており、家族が来訪時や電話連絡時に意向を確認するようにしている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	日頃の会話や様子などから、その人の思いは何かに関心を持ち、ミーティング時に気になるところ等を意見を出し合っている。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	充分ではないが、面会時などにご家族等と、性格やこれまでの生活状況などについてお話をお聴きしたりしている。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアカンファレンスやミーティング時に話し合い記録に残している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	ミーティング時等に意見交換し、面会時にはご家族にも報告し話を聞くように努めている。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時にはそれまでに関わってきた事業所やご家族より情報を頂いている。入居後には本人やご家族よりこれまでの生活スタイルや、会話の中からの本人のこだわり等を聴き取っている。	/	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から、これまでの暮らし方や生活歴、現状などを聞き、把握をしている。また、入居前に利用していた居宅介護支援事業所の介護支援専門員や医療関係者などから情報を得ることもある。さらに、同居していない家族からは詳細な情報を聞くことが難しいため、日々の会話の中で、利用者から意向を聞いたり、表情やしぐさから思いをくみ取ったりするよう努めている。
b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日常の活動の中から、心身の状態や有する力等を把握し、ミーティング等で話し合い共有している。	/	/	/			
c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	朝夕の申し送りでの様子を報告し、状態を確認し、要因は何かについて意見を出し合い話し合っている。	/	/	/			
d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	朝夕の申し送りでの様子を報告し、状態を確認し、要因は何かについて意見を出し合い話し合っている。	/	/	/			
e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	朝夕の申し送りやミーティング時に、気になったことを報告し意見交換し、把握に努めている。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	申し送りやミーティング、ケアカンファレンス時に、情報や日頃の関りをもとに本人が何を求めているのかを検討している。	/	/	○	新たな利用者には、事前に得た情報と入居後の1か月程度の経過を観察した情報をもとに、利用者の視点に立って、職員間で検討をしている。その後は、日々の申し送りや月1回実施するミーティングを活用して、利用者や家族、医療関係者の情報を共有するとともに、職員間で話し合いをしている。
b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	申し送りやミーティング、ケアカンファレンス時に、情報や日頃の関りをもとに、本人に必要な支援は何かを検討している。	/	/	/			
c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	計画書の課題にあげ、支援に繋げている。	/	/	/			

愛媛県グループホームこころ今出

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人やご家族の意向を聴き、取り入れた介護計画の内容としている。				日々の支援の中で、職員は利用者の意向を確認するほか、家族には書面で意見をもらうようにしている。また、事前に聞いた利用者や家族、医療関係者の意見や意向、指示を踏まえて、ケアカンファレンスを活用して職員間で話し合い、介護計画を作成している。さらに、利用者や家族の意見が反映された介護計画となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	日頃の様子やご家族のお話、主治医の意見などから、課題やケアのあり方について、ミーティングやケアカンファレンス時に意見を出し合って検討し作成している。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	一日のスケジュールが決まっている部分もあるが、本人やご家族の意見も取り入れ、スケジュールがその方の一日の暮らしの流れとなるように努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ禍となりご家族や地域の方々との交流・関わりが難しくなっている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎月計画書を確認し把握するよう努めている。				職員はケアカンファレンスに参加するほか、介護計画を確認して、内容を把握するよう努めている。日々の様子の記録は、介護計画の支援内容等を確認しながら、細分化された記録用紙に、分かりやすく記録できるようになっている。また、記録には利用者の発したそのままの言葉を記録に残すとともに、職員の気づきやアイデアは申し送りノートに記載して、他の職員が見ても、分かりやすいように記載されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	モニタリングを行い、ケアカンファレンスで実施状況を確認し次の支援に繋げている。一日の様子の確認欄や排泄チェック表等を利用し実施を確認している。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	具体的な内容は都度記入ができていないが、朝夕の申し送り時やミーティング等で状況・エピソード等について話している。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	朝夕の申し送り時やミーティングで気づきや対応の検討を話し合い、申し送りノートに記録している。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	ミーティング時にカンファレンスを行い、期間に応じて見直しを行っている。				◎ 介護計画は、3か月に1回を基本として、見直しをしている。また、新たな利用者には、入居後1か月で計画の見直しを行うとともに、その後、短期目標等の期間に合わせて、3か月毎に見直しをしている。さらに、月1回実施するミーティングを活用して、利用者の気になることなどの現状を確認している。加えて、体調の変化に応じて、利用者や家族、医療関係者を交えて話し合い、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月一回のミーティング時に、それぞれの利用者の気にかかる事等を確認している。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態の見極めを行い、ご家族、その他関係者へ報告相談を行い、現状に合った新たな計画書を作成している。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	緊急案件がある場合には、朝夕の申し送り時に検討を行い対応している。通常はミーティング時に意見交換を行っている。				月1回ミーティングを実施し、職員間で情報共有をするとともに、課題などの話し合いをしている。また、緊急案件のある場合には、朝夕の申し送り時等を活用して、その日の勤務職員で話し合い、情報伝達をしている。さらに、職員がミーティングに参加しやすいように、1か月前に開催日を決めて、月の中旬の夕方時間帯に開催をしている。加えて、参加できなかった職員には、議事録や申し送りノートを確認してもらうとともに、口頭でも申し送りをしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	月一回のミーティング時に、それぞれの情報や気づき、考え方や気持ちを意見交換する時間を取っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	月一回のミーティングは、月中ごろを予定し、一か月前には事前に報告している。可能な限り多くの職員が参加できるよう、開催時間を夕食後に設定している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録に残し、確認して署名を残すようにしている。内容で不明なところは施設長へ確認を取るようにしている。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートを活用し、確認したら署名をするようにしている。又、内容によってはミーティング時に検討を行い共有している。				◎ 朝夕の申し送りを口頭で実施するとともに、申し送りノートを活用して、必要事項を記録している。また、職員は出勤時等に申し送りノート等を確認し、確認後にはサインを残している。さらに、施設長が内容の再確認を行うなど、確実な情報伝達に繋げている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノートを活用し、確認したら署名をするようにしている。又、内容によっては申し送り時やミーティング時に、報告を行い共有している。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	重度化しており、「横になりたい」という希望が多くなっている。その中でも、少しでも興味をわくこと、やりたいと思う活動ができる様、興味を持ってもらえる工夫に努めている。				着る服や飲み物を選んでもらうなど、日常生活の様々な場面において、職員は声をかけて、利用者に自己決定できる場を設けている。コロナ禍以前は、買い物に出かけ、利用者に好きな物を選んで買ってもらう支援もできていた。また、利用者に手伝わってもらった場合には、職員から「ありがとう、助かった、またお願いします」などの感謝の言葉を伝えると、利用者が自然と笑顔になる様子も見られる。さらに、音楽を流したり、歌を歌ったりしている時には、利用者がリズムを取りながら、和らいだ表情となり、盛り上がることも多く、職員は利用者の生き生きとした言動や表情が見られるような雰囲気づくりにも努めている。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	お茶の時間やおやつ時間に好きな飲み物などを選んで頂いている。その日に着る服を選ばれる方もおられる。			◎		
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	日頃より利用者一人ひとりと話す機会をつくり、希望を表しやすいような雰囲気作りに努めている。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	一日のスケジュールが決まっている部分もあるが、利用者のペースに合わせて、強制的にならない声掛けに努めている。					
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	明るく話しかけたり、楽しい雰囲気づくりに努めている。					◎
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通が難しい方は、日頃の声掛けに対する表情や、反応を考慮し、本人の意向に合うよう支援に努めている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	内部研修などで学び、言葉がけや態度も職員同士で声掛け意識できるよう努めている。		◎	○	身体拘束の内部研修時を活用して、「人権」「尊厳」などのテーマを取り上げて、職員は学んでいる。また、2階に居室があり、利用者は日中に1階で過ごすことが多いため、事前に、職員は利用者に居室への洗濯物の持ち込みや掃除などで入室することを伝え、承諾を得てから入室をしている。さらに、難聴の利用者や耳の遠い利用者もあり、時には、排泄誘導などに、職員が大きな声を出しがちになっているため、施設長は「検討が必要である」と感じている。今後は、排泄誘導時に限らず、職員の声かけの仕方を工夫したり、文字や絵を書いて見てもらいながら伝達したり、ジェスチャーを交えるなど、コミュニケーションの手段を工夫しながら、より分かりやすく伝えられるような支援方法が行われることを期待したい。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	利用者一人ひとりに敬意は払っているが、聞こえにくい方も多く、職員が元元よく声掛けをする為、声掛けは大きくなりがちである。					△
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	不安を感じない様、配慮した声掛けを行い、ドアの開閉時には配慮に努めている。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	訪室時にはノックか声掛けを行っている。					
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報の取り扱いについての研修を受け、取り扱いには注意している。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者に助けってもらうことも多く、感謝の言葉を伝え、良い関係を築くことができている。				利用者に助けってもらったり、手伝わってもらったりすることも多く、職員は感謝の言葉を伝えている。また、男性の利用者同士が、移動中に言い争いになることが見られるため、職員は早期に間に入り、仲介するなどの対応をしている。さらに、利用者の配席にも考慮するとともに、テーブルを離すなどの工夫もしている。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が話を聞いたり、手伝ったり、見守りあったりして助け合っている事を理解している。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	すぐに職員が間に入るのではなく、見守り様子を見て関わるように努めている。ご利用者同士の関りや交わりに繋げる様に努めている。					○
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入り、気分が変わるよう別の場所へお連れしたり、他の利用者にも声掛けし不安を与えない様に努めている。					

愛媛県グループホームこころ今出

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人との日頃の会話や、ご家族等の面会時等に教えて頂いて把握に努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人との日頃の会話や、ご家族等の面会時等に教えて頂いて把握に努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	個別外出等で希望があれば出かけることも可能である。ご家族にも相談し、ご家族で出かけられることもある。ただ、コロナ禍となり、外出が難しくなっている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	曜日や時間など関係なく、気分よく過ごして頂けるよう配慮している。コロナ禍となつてからはキーパーソンの方を中心に面会を限らせて頂いた時期もある。現在は、電話連絡の上、少数人数で体調確認を行い、時間制限の上でパネルを使用している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	スタッフの人数によっては希望に添えないことがある。散歩にお連れしたり、日向ぼっこなどを提案している。個別外出もあり、希望の場所へお連れすることも可能である。面会時にご家族様対応などもお願いしていたが、コロナ禍となつてから、外出が難しくなり、スタッフとの近所への散歩や日向ぼっこで対応している。	△	×	○	コロナ禍以前は、毎月の外出計画を立てて、外食や買い物、ドライブなどの外出レクリエーションに出かけることができていた。コロナ禍において、外出できる機会は減少しているものの、日課となっている事業所周辺の散歩をしたり、玄関先に設置しているベンチに座って外気浴をしたり、デッキに出て、おやつやお茶を楽しむなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、重度の利用者も、食事の際には、リビングに出て過ごしたり、車いすで散歩に出かけたり、デッキに出て外気浴をするなどの支援にも取り組んでいる。さらに、外出が減っている代わりに、本物のぶどうをぶら下げて、ぶどう狩りの雰囲気を楽しんだり、オリンピック等のテレビ観戦時には、手作りの旗を振って応援したりするなどの工夫もしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ禍となり、外部の方との接触は極力控えている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	散歩に出かけたり、デッキ等での日向ぼっこ等を行っている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	以前はご家族様との散歩や外出を、ご家族へ呼び掛けていたが、コロナ禍となつてからは、ご家族様との外出は受診等の最小限に控えている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	内部研修に参加し、認知症の行動や心理症状を学び、利用者の状態については日常的に申し送り等で話し合っている。				洗濯物干しやたたみ、食器洗いなどの生活リハビリを取り入れたり、ラジオ体操や口腔ケア体操、平行棒を使用して運動を実施したりするなど、利用者の心身機能の維持にも努めている。また、自分でできることは、利用者自身でもらうとともに、できそうなことを職員は見守ったり、手助けをしながら一緒に行ったりするなど、時間がかかっても、見守りや待つ介護にも努めている。さらに、訪問調査日には、利用者と一緒におやつ作りを行う様子を見ることができた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	個別でリハビリを行っており、ラジオ体操や口腔体操も取り入れている。又、主治医からの指示や、日常生活の中で機能低下を確認した際には、職員内で意見交換しリハビリに繋げている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	危険がないよう見守り、できそうなことは行っていただいている。難しいところは一緒にしたり、手助けしたり対応している。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	重度の方も増えており、以前のように作業に参加できなくなっている利用者様もおられる。新しい入居者様や作業参加可能な利用者様は、それぞれに役割分担ができているところがある。				日々の食器拭きや洗い、洗濯物干し、清掃など、職員は利用者一人ひとりに、できる役割を担ってもらえるよう努めている。また、利用者の高齢化や重度化に伴い、以前できたことができなくなってきたものの、職員は探りながら、玄関先のプランターの水やりなど、少しでも役割や出番づくりができるような支援にも努めている。さらに、日常的に洗濯物をたたんでいる男性利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	本人の状態を観察し、できる事や楽しめる事を探っていき、感謝の気持ちを伝えることで、気持ちよく役割を持って頂けるよう努めている。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	以前はホームの周りを職員と清掃を行っていたが、足元不安定になる方多く、現在行えていない。				

愛媛県グループホームこころ今出

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	本人の好きな服や色を把握しており、自分でその日着る服を選ばれたり、気に入らない場合には着替えられたりする方もおられる。				起床時に、その日着る服を自分で選び、着替えや身だしなみを整えることができる利用者もいる。男性利用者が電気シェイバーを利用して、自身で髭剃りを行い、後から職員が確認して、剃り残しなどのフォローをしている。また、職員は季節に合った装いの衣類に着替えてもらうとともに、すぐに散歩などの出かけられるよう、玄関先に帽子や上着が着用できるように置いている。さらに、整容の乱れや食べこぼしなどの汚れが見られた場合には、職員から利用者に配慮した声かけを行い、さりげないフォローをしている。加えて、重度の利用者には訪問問答を活用して、整髪をしてもらうとともに、職員が長髪の利用者は髪をヘアバンドで結ぶなど、清潔感のある様子を窺うこともできた。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	自分でその日着る服を選ばれたり、重度となり自分で選べなくなっておられる方は、好きだった服装を選び整えられるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員が色々なことを考慮して一緒に選んだり、アドバイスをを行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合った服装ができる様に努めている。買い足す場合には、ご家族に連絡を取って本人の好みに添える様努めている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	声掛けは大きな声になりがちであるが、言葉には気を付けてプライドには配慮し、さりげなくカバー出来るよう努めている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	訪問カットを利用し、ご希望を伝えている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	持ってこられた服を着たり、新しく買い足す場合には、本人の好みを大事にするようにしている。髪型も希望を伝えている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事を楽しみにされてお理解している。				法人の代表者が食材の買い出しに出かけているほか、畑で収穫した旬の野菜を持って来てくれることもあり、その日の食材を見てから、その日の献立を職員が決めることも多い。不足の食材などは、職員が買い物に出かけて、買い足しをしている。食器拭きや洗い、ちらし寿司を混ぜるなどの簡単な調理を利用者に一緒に手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。また、フルーチェなどのおかし作りを一緒にすることもある。コロナ禍において、外食に出かけることができないため、デリバリーのランチや駅弁などを注文して食べることもあり、利用者は楽しみにしている。茶碗や箸などは、入居時に持参して使用しているものの、長期の利用者には、職員が状態に合わせて使いやすい食器等を選んでいる。コロナ禍以前は、同じ食卓を囲んで、職員は利用者と一緒に食事を摂ることができていたものの、現在はコロナ禍の感染対策のため、見守りや食事介助を行い、一緒に食べることはしていない。利用者はキッチン前のリビングで過ごしており、調理の音や匂いを感じることができている。さらに、職員間で話し合い、利用者一人ひとりの食事形態表を作成するとともに、利用者の状態に合わせて食の形態や調理方法の対応をしている。その日の食材を見て献立を決めることが多く、管理者が一定の期間に調理した献立の見直しを行い、バランスを考えて職員に助言をしている。今後は、栄養バランスについても、栄養士や医師の専門職からアドバイスをもらうなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物には時々行くことがあり、選んで頂くこともある。普段の買い物は会社がまとめて行っている。簡単にできる調理や食器拭き食器洗いを一緒にやる事がある。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者は食べる事は楽しみにされており、誰が手伝ってくれたとか、自分が作ったことで喜ばれることもある。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握し、アレルギーの物は避け、嫌いなものは食べれるように工夫している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	会社で畑を作っており、旬の食材がたくさん届くので調理担当者が工夫して調理を行っている。利用者にも初物などはお見せして、季節感を味わって頂いている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	キザミ食・ミキサー食・お粥を取り入れて本人に合わせた調理法を工夫して、少しでもおいしそうに見える盛り付けの工夫に努めている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人の使いやすいものを使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	その人に合わせながら、ゆっくり食事がとれるよう見守り、サポートを重視している。職員は感染予防のために一緒に食事を囲んでいない。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食堂よりキッチンの中が見え、調理のにおいや様子が分かる。カウンター越しではあるが、調理をしながらお話をし、食事を楽しみに待って頂いている。食事中もBGMを流し、雰囲気作りを努めている。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	状態に合わせて食事形態にし、必要な量が摂取できるように努めている。水分摂取量には特に気を付けている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事形態を一時的に変えて対応したり、栄養機能食品を取り入れ低栄養にならない工夫をしている。水分摂取については本人の飲みやすいものを回数をつけてお出してお対応している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	旬の食材を豊富に使用し、利用者が食べやすい調理方法を考えている。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理担当者が食材の衛生管理に努めている。調理器具も熱湯消毒・ハイター消毒を毎日行っている。				

愛媛県グループホームこころ今出

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	日本訪問歯科協会より定期的にチラシを頂き、理解しており、毎食後に口腔ケアを行い、夜間は洗剤を使用している。				食事前に、口腔ケア体操を実施するとともに、職員は義歯の利用者に、「入れ歯を入れますか」などの声かけをしている。毎食後に、利用者は歯磨きなどの口腔ケアをするるとともに、職員は必ず口腔内の様子の確認を行い、磨き残しなどのフォローや介助をしている。また、義歯の利用者の口腔内の状況や種類などを記録に残して、職員は把握することができているものの、自分で歯磨きをしている利用者など、全ての利用者の虫歯や残歯、舌の状態などの口腔内の状況を把握することができていないため、今後は、定期的に全ての利用者の口腔内の様子の確認を行い、状況を記録に残したり、歯科医や歯科衛生士に口腔内の状況を確認してもらったりするなど、確実にチェックができるような支援方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	義歯の状態は把握できているが、舌の状態などは把握できていない。				
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	日本訪問歯科協会より定期的にチラシを頂き、理解しており、口腔体操等を取り入れている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	できないところを介助している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後に口腔ケアを行っており、自力で難しい所は職員が介助を行っている。				
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	不具合があった場合には訪問歯科を利用している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレでの排泄を心掛けている。紙パンツを使用する事となっても、自信が回復できる様、声掛けを行い対応している。				ほとんどの利用者は、紙パンツと尿取りパッドを使用している。状況に応じて、テープ止めのおむつを使用している利用者もいる。また、事業所として、可能な限りトイレでの排泄ができることを重視した支援に努めており、個人記録で排泄パターンを把握して、声かけやトイレ誘導をしている。さらに、おむつやパッドなどの排泄用品の使用時には、職員間で検討するとともに、家族に了承を得てから使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘で不穏になられる方もおられる為理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	記録する事で排泄のパターンの把握に努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	トイレでの排泄を基本として意見を出し合い話し合っているが、必要に応じて紙パンツも使用している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	便秘に良いストレッチや体操を取り入れている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	本人のパターンに合わせた声掛けで誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	スタッフ間で何をどのように使用していくか検討し、ご家族に相談している。本人にご理解いただける場合には説明もしている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	外出時や夜間、尿量等で使い分けを行っている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取の声掛けや散歩、便秘に良いストレッチや体操を行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	入浴日や時間帯は決まっているが、ゆったりと入浴をして頂ける様に入浴剤なども使用している。	◎		○	3日に1回を基本として、職員は利用者の入浴支援をしている。入浴に対して、職員は利用者に見えたり歌を歌ったり、ゆっくり浸かられたり、リラックスして入浴できる様努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	利用者に合わせて、お喋りをしたり歌を歌ったり、ゆっくり浸かられたり、リラックスして入浴できる様努めている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	できる所は見守り自力で行って頂き、できなかったところを介助している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む要因の理解に努め、時間帯を変更したり、スタッフが交代して声掛けしたり対応している。拒むことも少なくなっている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	起床時のバイタル、入浴前のバイタル・様子等を考慮して判断し、入浴後の状態も確認している。				

愛媛県グループホームこころ今出

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間のトイレの回数や休まれる頃、起床される頃を把握している。	/	/	/	入居前から、眠剤や安定剤を使用している利用者もいるものの、事業所では可能な限り服薬に頼らないよう努めており、睡眠状況を確認しながら職員間で話し合い、減薬や服薬を止めることができた利用者もいる。また、朝早く起床された利用者には、一緒にソファに座り、職員は話を聞くなどの対応をしている。さらに、日中のレクリエーションや散歩、体操などの活動量を増やし、利用者が夜間に安眠できるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の過ごし方を考え、薬に頼らない工夫に努めている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の過ごし方を考え、散歩に出掛けたり、手伝いやレクリエーションを行い活動時間を増やし、薬に頼らない工夫に努めている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	居室又は和室やソファで休めるように努めている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人のご希望がある時や、様子を見て電話が必要な場合には電話をかけることがある。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話をかけたい様子があれば、スタッフが声をかけてお手伝いしている。お手紙を書かれる方はおられないが、字を書くと言われる場合には、紙とペンを用意している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	子機を利用し、個人的にお話ができるスペースにお連れしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に電話されるか、お返事を書いてみられるか、声をかけている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	家族には電話を掛けることに理解をお願いしているが、家族より、電話や手紙をもらえる様にはお願いしていない。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	自分でお金を所持している方もおられる。自分で支払う事の大切さを理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	以前は個別外出で、スタッフと一緒に必要な物を買いに掛ける、好の物を値段を見ながら一緒に選んでいたが、コロナ禍となってからは行ってない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	同じお店に買い物に行く事が多く、挨拶をし理解が得られるよう努めている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	以前は、本人のご希望に応じて、ご家族と相談し、いくらか失くしても差し支えない程度の金額を所持し、場合によってはご自分で支払いを行われる様にしていたが、コロナ禍になってからは行ってない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	お金の所持についての話し合いで、所持方法について話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	契約時にご家族へ説明を行い、買い物等の支払いは、一時的に事業所が立て替えて、後で請求している。日常的に決まった買い物については連絡は行わないが、高額な買い物については、家族に前もって相談の連絡を行っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族と疎遠な方、遠方に住まわれている方については病院受診や買い物等、スタッフがやっている。コロナ禍となり、買い物全般はご家族に相談後スタッフがやっている。	◎	/	○	コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられているものの、職員は可能な範囲で、利用者や家族の要望に、柔軟に対応をしている。また、面会ができないため、道路沿いの窓のカーテンを開けて、家族に利用者の顔を見てもらえるような工夫をしている。さらに、職員が買い物支援を行うとともに、遠方の家族には、病院への同行支援にも対応するなど、少しでも家族等の要望に対応できるよう努めている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>(3)生活環境づくり</b>										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関周りにお花を植え、スタッフが手入れを行っている。ご近所の方に出会ったら挨拶をし、親しみがお互い持てる様努めている。	○	×	○	玄関前は整理整頓されているほか、スロープや手すりが設置されている。また、玄関周辺には、木々や花が植えられ、手入れされたきれいな花が咲いている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	利用者もスタッフも心地よく過ごせる空間となる様に、季節の花を飾ったり、観葉植物を置いたり、自分たちが手作りしたものを飾って心地よい空間となるように努めている。	○	○	○	玄関の扉は開放され、網戸仕様となっており、風通しが良くなっている。玄関に入ってすぐの場所には、格子柄の衝立が置かれているほか、その前には座布団付きのベンチが設置されており、利用者や来訪者はゆっくりとくつろぐことができる。また、虫よけの蚊取り線香が置かれ、風情を感じることができる。いつでも利用者が散歩に行けるように、玄関の近くに上着と帽子を用意している。さらに、リビングの奥には14畳の和室があり、床の間には掛け軸や大きな壺が飾ってある。事業所の至るところに観葉植物や花が飾られているほか、大きな窓からは隣家の紫陽花がよく見え、利用者は季節を感じることができる。加えて、2階の踊り場にもソファとテレビが置かれているほか、壁の大きな丸浅竹ざるには、顔写真付きで職員を紹介している。リビング食堂の近くにはトイレがあるものの、のれんなどで目隠しをする工夫をしている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日共用空間は掃除を行い清潔に整頓している。しかし、リビング・食堂のすぐ横にトイレがある為に臭いがあることはあり、消臭スプレーなど使用し配慮している。	/	/	/		○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の植物を飾ったり、デッキのプランターにお花を植えたりして季節が感じられる様に工夫している。又、BGMにクラシックやジャズ・民謡・演歌等の音楽を用意している。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	和室や、リビングソファ、二階のソファ、デッキ等を利用している。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレがリビングや食堂の横となっており、のれんで直接見えない様にしている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居される際には、使い慣れた馴染みの物を持って来て頂ける様に説明している。出窓には観葉植物を置き、お気に入りの物を飾ったりされ、心地よく過ごせるように工夫している。	◎	/	◎	居室には、馴染みの物や使い慣れた物を持ち込むことができ、扇風機や置時計、藤の家具、鏡台などが置かれている。壁には家族写真を貼るなど、利用者に合わせた居心地の良い空間づくりを支援している。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	室外では車いすを利用される方も、室内では手すりを利用し移動が可能となっている。一階と二階の移動はエレベーターを利用するが、使用の仕方が分からない場合には、付き添い使用するようにしている。	/	/	○	居室の入り口には、顔写真付きの氏名が表示され、利用者が迷わないような工夫をしている。また、浴室やお手洗いの木札が掛けられ、利用者に場所を認識しやすいようにしている。さらに、共有空間の整理整頓が行われ、利用者が移動しやすい環境づくりをしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	食堂・リビングは、どこからも見えやすい位置に時計を設置している。トイレや浴室には看板を付けて場所が分かるようにしている。又、認識が難しい方には早めの声掛けをしている。	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞雑誌等は、誰でも手に取れるところに置かれている。ポットなど危険なものは職員が対応している。洗濯物などを取り入れると、和室や食堂のテーブルで広げ、目にした利用者が気づいて畳むのを手伝って下さっている。干すのも同じく手伝って下さる。	/	/	/		
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	スタッフ、ご家族には自由に出入りできる暮らしについて説明し理解を進めている。しかし、多数の対応が難しいと予想される場合など一時的に施錠することはある。本人からご希望があれば、一緒に出掛けて対応している。ドアの開閉でセンサー対応しているが、センサー音に気づかないことがあり、ドアを閉め、網戸を開けて、建具を置いての対応となっている。	×	◎	△	職員は内部研修等で学び、玄関やユニットの入り口に鍵をかけることの弊害を理解している。玄関には、センサーチャイムが取り付けられ、職員は利用者等の出入りを分かりやすくしている。日中に玄関の施錠をせずに、網戸仕様にするのと同時に、夜間は防犯のため、施錠をしている。また、外出願望のある利用者には、職員が付き添い、一緒に戸外に出るなどの対応をしている。利用者家族等アンケート結果から、利用者の安全面を考え、家族に鍵をかけないケアの取り組みに十分な理解が得られていないことが窺えるため、継続して鍵をかけることの弊害を説明するなど、理解の促進が図られることを期待したい。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	△	玄関に鍵を掛けることが当たり前と捉えられておられるご家族に対し、鍵をかけない暮らしについての説明を行っている。しかし、ご家族、地域からも普通は家でも玄関は施錠するとのこと見もある。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関扉にセンサーを設置し、ドアが開いたら感知するようになっている。又、ドアを閉め、網戸を開け、建具を置いてドアを開ける前に職員が確認が取れる様にしている。散歩時に近所を回り、顔なじみとなり理解と協力にも努めている。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個人ファイルに全て記載されており、いつでも確認ができるようになっている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタル測定を行い、変わった様子があれば朝夕の申し送りや朝の申し送りでも残し共有している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師に相談を行い、主治医にも往診時や電話連絡にて、早い気づきの段階で相談するように努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	入居前に受療状況をご家族より確認を取り、希望の医療機関・専門医への受診について確認を取っている。専門医への受診は家族対応をお願いし、緊急の場合等にはご家族と連絡を取りスタッフが柔軟に対応している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	希望の医療機関・専門医への受診についての確認を取り、協力医療機関のご紹介を行い、納得の得られたかかりつけ医に適切に医療を受けられるよう支援し、関係作りを努めている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	専門医への受診は家族対応をお願いしているが、場合によってはスタッフが柔軟に対応している。受診結果等については、ご家族と連絡を取り、対応について話し合っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時には介護サマリーや主治医の紹介状を書いて頂いて、医療機関に情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	△	コロナ禍となり、面会等行けず、ご家族より情報を頂くことが多かった。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	入院してからの関係づくりとなっている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	職員に看護師がおり、気になる事や気づきを相談している。週に一回、看護師よりかかりつけ医の方へ状態の報告を行っている。場合によっては、相談後かかりつけ医へ連絡を取り対応する事もある。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護師、かかりつけ医とも、何かあれば24時間いつでも連絡を取れる体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタル測定の結果や状態変化を、かかりつけ医の往診時に伝えている。又、往診日以外で状態変化で気が掛かる場合は、その時に連絡を取っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の変更時は、申し送り確認を行っている。個人ファイルに薬情報を保管してあり、いつでも確認できるようになっている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬のセット時、服薬介助時に必ず二人で確認を行うようにしている。時々、服用まで確認するが、その後口から出されていることがある。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬の変更時、臨時薬の服用時等に副作用が見られる事があり、状態変化に注意している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の変更時、臨時薬の服用時には状態の経過や変化を確認し記録するように努めている。				

愛媛県グループホームこころ今出

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居される時に終末期についてのお話をご家族に行うが、実感としてわからない話となるので、本人の状態変化があった場合に、その都度ご家族にお話をしてご意向確認を行い、方針を共有できる様努めている。	/	/	/	事業所には、「ご本人様の重度化及び看取り介護に関する指針」があり、入居時に利用者や家族に説明するとともに、重症化や状態の変化に応じて、その都度説明をしている。利用者が重度化や終末期を迎えた場合には、最初に主治医と施設長が相談するとともに、施設長から家族に説明を行い、方針を共有している。また、必要に応じて、家族と主治医を交えて話し合いをすることもある。さらに、職員は内部研修で看取り介護の支援方法を学び、情報共有をしている。加えて、今まではほとんど看取り経験はなかったものの、昨年度に1件の看取り介護を経験している。看取り時には、事業所に面会制限が設けられていたものの、家族には非常口から入ってもらい、最後の時を一緒に過ごしてもらえるよう支援したこともある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	本人・家族のご意向を伺い、事業所ですること・できないこと、かかりつけ医の対応等の説明を行い、話し合い方針を共有できるよう努めている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者は職員の思いや力量の把握に努め、スタッフ同士でも思いや対応について話し合っている。又、終末期に関しての内部研修に参加し、知識を深める様努めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	管理者からこの事業所で「できること・できないこと」の説明を行い、場合によってはかかりつけ医からも説明を行う事もある。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人やご家族様の気持ちやご意向をくみ取れるように努め、かかりつけ医と連携を図り、本人やご家族が置き去りにならない様にチームとして支援していける様努めている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	お声をかけたり、お話を聴いたりではあるが、心情の理解・ご家族の事情の考慮に努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	内部研修やeラーニングにて学んだり、資料の配布やマニュアルで定期的に確認している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	職員の出勤前に自宅での検温、マスク着用やこまめな手洗い・消毒及び共用部分のこまめな消毒などを行い、利用者様にもマスク着用、食事前手指消毒を行っている。面会も玄関にて体調確認を行い、換気しながらバネル使用で行っている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	保健所や行政からの通達や、テレビ等で情報を得て対応している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	保健所や行政からの通達や、テレビ等で情報収集に努め、送りで感染予防を声掛け対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗いやうがいを徹底し、流行時期には目標として努めている。利用者にもうがい手洗いを促し、体調不良者はマスク着用を促している。一日二回の共用部分消毒も行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時や電話連絡にて、本人の現状が理解頂ける様な説明に努めている。行事の参加や外出等も、ご家族に促すことが出来る様なコミュニケーションに努めている。				コロナ禍以前は、家族の参加協力を呼びかけて、法人合同でそうめん流しや芋炊き、こころ祭りなどを開催して、一緒に交流を図ることができていたものの、コロナ禍において、家族への呼びかけは自粛している。運営推進会議に合わせて、家族会を開催することもできていた。施設長等は、「コロナ禍が落ち着いたら、家族の参加できる行事等の再開したい」などと考えている。また、毎月多くの写真を掲載した「こころ今出便り」を家族に送付して、事業所での利用者の生活の様子を伝えるとともに、状況に応じて、電話でも利用者の様子を報告している。さらに、事業所の運営上の事柄や出来事は、運営推進会議の中で報告するほか、家族には、面会時や電話連絡時を活用して、その都度報告をしている。加えて、家族から連絡がなくても、介護計画の作成時や状態の変化に応じて、必ず職員は電話や書面で意見を聞くなど、話しやすい関係づくりに努めている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	曜日や時間など気に掛けることなく、気兼ねなく来て頂いて過ごせる様、コミュニケーションの取り方に努めている。コロナ禍となつてから、時間・場所・人数の制限などはある。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	以前は食事会など行事に案内し、面会時には散歩や外出もお勧めしていたが、コロナ禍となつてからは、行っていない。			○		○
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月「こころ便り」を送付し写真などより日頃の様子がわかるようにしたり、日頃の様子を面会時や、電話連絡にて報告している。			◎		◎
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	状態の報告時に、ご家族が気が掛かる事など確認を行ったり、お話の中から聞き取り、報告できるように努めている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時や電話連絡時に、ご家族との信頼関係を築いていき、少しずつお話を伺い関係の理解に努めている。日頃の様子を報告しながら、スタッフの取り組み、その反応などもお伝えし、本人への理解が広がるように努めている。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	運営推進会議で報告を行っている。			◎		○
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	年に一回家族会を開催している。二カ月に一回の運営推進会議時にもご家族同士の交流の機会がある。又、行事が交流の場となっている。しかし、コロナ禍となつてからは機会が提供できていない。					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	運営推進会議にて、ヒヤリハットや事故の報告を行い、起こり得るリスクについて話し合う機会がある。又、一人ひとりに起こり得るリスクについては状態を報告する際に説明し、対応を相談するようにしている。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会時や電話連絡にて状態報告を行う際に、ご意見ご希望をうかがえるように努めている。又、計画書の作成時期にはご意向確認用紙に記入して頂いている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	具体的に説明を行い、理解して頂き納得を得ている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約に基づいて、決定過程を明確にし、ご利用者やご家族に内容について説明を行い、納得のいく退居となる様に支援している。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	運営推進会議等で説明を行い、本人やご家族にご理解を頂いて、同意書を頂いている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	設立当初には理解は得られていなかったが、その後運営推進会議やボランティア等に参加して頂き、散歩等で会う機会も増え、事業所の事を少しずつ理解して頂く機会が増えた。	/	△	/	コロナ禍以前は、地域のお祭りや集会所のイベントに利用者と一緒に参加したり、近隣の保育園の運動会に参加したりするなど、地域と交流を図ることができていた。コロナ禍において、利用者が地域と交流できる機会が減っているものの、顔馴染みとなっている近隣住民もおり、散歩などに顔を会わずと挨拶や会話を交わしている。また、事業所周辺の散歩時には、利用者と一緒、道路や周辺のゴミ拾いをしている。さらに、駐車場横にある畑の持ち主と、職員はよく会話をすることもあり、野菜などのお裾分けをもらうこともある。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	近所を散歩しており、顔見知りとなり日常的な挨拶を交わしている。又、野菜や古新聞を頂く事もある。コロナ禍となってからは、地域の行事も事業所の行事も中止となり、交流する機会がなくなっている。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	散歩の途中で声をかけて頂く事が増えているが、地域行事等も中止となっており、関係を深める機会難しい。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナ禍となってからは地域の方の訪問はほとんどない。玄関先や駐車場等でお会いした際にお声掛けしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	玄関先が多いが、気軽にあいさつを交わしお話をするようになった。又、お土産を頂いたり、畑で採れた季節の野菜のお注ぎ分けをしたりしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	散歩であいさつを交わす事で顔見知りとなり、地域の方の方から声をかけて下さる事も増えた。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域の行事(現在は中止)に参加したり、近所の公園やスーパーを活用している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	地域の福祉施設との交流が持てるように、地区の事業所連絡会に参加している。散歩や買い物で地域のコンビニやスーパー・郵便局を利用する事も多い。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	開催された場合には、家族や地域の方の参加がある。コロナ禍となってからは、文書開催となっており、資料を送付し意見を頂き、ご意見をまとめて議事録として送付している。	◎	/	○	コロナ禍以前は、家族会を運営推進会議に合わせて開催することもできていたが、現在のコロナ禍において、ほとんどの会議は文書開催となっている。感染状況を見計らいながら、法人のデイサービスの場所を活用して、集合形式の会議も開催している。また、書面開催においても、事業所の様子やヒヤリハット・事故報告、感染症対策、自主防災などを報告するとともに、会議の参加メンバーから質問や意見を出してもらうこともできている。さらに、出された意見に回答をするなど、事業所の一方的な報告などの発信に留まることなく、出された意見を反映するなど、サービスの向上にも繋げている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	資料を作成し、活動内容やヒヤリハット・事故等の報告で、直面している課題解決に向けての取り組み状況を報告している。評価への取り組み状況も目標達成計画で報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	質問や意見にはしっかりと答え、提案等にも取り組み様に努めている。意見交換や報告の場となっている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	年に一回アンケートを取り、参加しやすい曜日時間について検討している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	玄関に掲示している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	朝の送り時には、基本理念と行動目標を職員で唱和し確認している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	一階二階の見えやすい所に掲示している。	○	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	二か月に一回、内部研修を行っている。又、職員のケアの実際と力量の把握に努め、外部での研修も受けられるよう取り組んでいる。コロナ禍となつてからは外部研修には行っていない。				代表者は、毎日畑で収穫した野菜を事業所に持ってくるほか、食材の買い物にも出かけて来訪する機会も多く、職員と話しやすい関係づくりができています。また、副代表が運営や業務のことを担っており、月1回実施するミーティングや、2か月に1回実施する内部研修に参加するとともに、職員との個別面談を行い、職員の意見や相談に応じることもできている。さらに、コロナ禍において、外部研修等には参加することはできていないものの、2か月に1回内部研修を実施し、職員のスキルアップにも努めている。加えて、施設長等は職員の働き方の希望の相談に応じたり、希望休や有給休暇の取得を促したりするなど、その都度職員の状況に応じて対応するなど、働きやすい職場環境づくりにも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	二か月に一回、内部研修を行い、実務の確認・訓練・学習ができるよう取り組んでいる。又、朝の送り時に介護福祉士の一問一答を行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	昇給もあり、賞与で職員個々を評価するなどして、各自が向上心を持って取り組めるように条件の整備に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	コロナ禍となり、外部との交流機会が持ていない。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	環境整備など職員の意見を取り入れ、整備に努めている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	外部研修に参加したり、内部研修にて虐待や不適切なケアについて学ぶ機会がある。				年6回実施する内部研修のテーマに虐待防止等を取り上げるとともに、毎月実施するミーティングを活用して、不適切なケアなどの振り返りなどの話し合いをしている。また、不適切な行為を発見した場合には、施設長に報告して注意喚起をするとともに、改善等が見られない場合には、施設長から副代表に報告をする仕組みができています。さらに、施設長は、「職員の気になるスピーチロックまでは聞かれないものの、今後も勉強していくつもりである」と話されていた。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	毎月あるミーティングにて、日々のケアについて振り返りを行っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	毎月あるミーティングにて、日々のケアについて振り返りを行い、不適切なケア・対応方法について確認を行っている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の様子を見て声掛けを行ったり、本人からの話によって確認し、その後の状態に注意を払っている。その後、様子を見て声掛けをし確認している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	外部研修に参加したり、内部研修にて身体拘束について学ぶ機会がある。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月あるミーティングにて、日々のケアについて振り返りを行っている。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	職員が少ない時間帯など防犯も考え施設を行う時間帯はあり、拘束を行わなくても大丈夫なケアへの取り組みや工夫については運営推進会議で報告を行い理解を図っている。				

愛媛県グループホームこころ今出

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	以前のように外部研修に参加できていないが、資料で確認する事ができる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	パンフレット等を玄関に設置し、情報提供を行っている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	地域包括支援センターや、社会福祉協議会とは連携体制を築いているが、専門機関とは築いていない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルがいつでも見れるところにあり、外部研修や内部研修にて学ぶ機会もある。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	外部研修や内部研修にて、応急手当や初期対応について学ぶ機会がある。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットも細目に気付く事ができ、毎月あるミーティングにて検討を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	毎月あるミーティングにて、利用者それぞれの気に掛かる点など話し合い事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	玄関の見えやすい所に配置している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	手順に沿って早期対応が行えるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	対策案を会社・職員間で検討し、速やかな対応に努め、サービス改善の経過や結果を報告し、納得を得ながら話し合いと関係づくりを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	玄関の見えやすい所にご意見箱を設置したり、個別にお話をする時にご意向等の確認を行っている。			○	日々の支援の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き、可能な範囲で対応をしている。コロナ禍において、「外食ができない」との利用者の声が出され、デリバリーサービスで好みの食べ物を注文するなどの対応をしている。家族には、面会時や電話連絡時を活用して、意見や要望を確認するとともに、運営推進会議やアンケートを実施して意見を聞くなど、様々な方法で意見を伝えてもらえるよう努めている。家族から、「外から中の様子が分からない」との意見が出され、道路沿いにある窓のカーテンを開けるなどの対応をしている。また、職員には、書面にして意見を出してもらうとともに、出された意見を取りまとめて職員全員で確認し、コメントを記載してもらっている。その意見をミーティング等を活用して、利用者本位の支援を職員間で検討をしている。さらに、施設長は職員の表情や体調を観察しながら、随時面談を行うなど、悩みや相談にも応じている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関の見えやすい所にご意見箱を設置したり、面会時等に個別でご意向等の確認を行っている。又、運営推進会議や家族会でご意見を頂く機会がある。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関の見えやすい所に掲示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	○	週二回程度事業所に訪れ、職員の意見や要望・提案を直接聞く機会がある。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日頃よりご利用者の対応についての提案・意見等は都度出し合い、毎月行うミーティング時に一人ひとりから意見等を求めている。				

愛媛県グループホームこころ今出

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価を行う際に、意義や目的説明し取り組んでいる。	/	/	/	自己評価を行う際に、施設長は職員に意義や目的を説明するとともに、職員の意見を取りまとめ、作成をしている。また、サービスの評価結果や目標達成計画等を運営推進会議の中で報告しているものの、コロナ禍もあり、取り組み状況のモニターまでは至っていない。現在の運営推進会議は書面開催になっているものの、サービスの評価結果を簡潔に取りまとめた文書で報告して意見をもらったり、コロナ禍の収束後には、家族等にモニターの参加協力を呼びかけて、取り組み状況の意見をもらったりするなど、サービスの向上に繋がられるよう、職員間で検討することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	目標達成計画を定めて取り組み、意識統一に活かしている。	/	/	/	
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	無理の無い、実現可能な目標達成計画を定め、毎月それに向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価結果と目標達成計画について、運営推進会議で報告をしているが、今後の取り組みのモニターとしてのお願いはしていない。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ミーティング時に取り組みについて確認している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	マニュアルがいつでも確認できる所に掲示されている。	/	/	/	年2回、事業所では昼夜を想定した避難訓練を実施している。事業所周辺の近隣住民は高齢者が多く、協力体制を確保することは難しいものの、自主防災組織の地区担当者と交流を図ることはできている。また、火災が発生した場合には、非常ボタンで各関係機関に一斉通報ができるようになっている。事業所だけでなく、法人として、災害への備えを検討する機会を持ち、少しずつ法人内連携や、地域との協力・支援体制が構築できることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間を想定し訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	年に二回定期的に行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	コロナ禍となってからは地域との交流が取れていない。	○	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	×	コロナ禍となり、地区の防災訓練に参加できていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	啓発活動等は行っていないが、地域行事や散歩に出かけることで、近くの施設で暮らしている利用者の方たちの存在、様子を知って頂く機会と考えている。	/	/	/	事業所として、地域住民等から問い合わせがあった場合には、相談対応をすることはできるものの、ほとんど相談は寄せられない状況となっている。コロナ禍以前は、学生の実習やボランティアなどの受け入れにも、協力することができていたが、コロナ禍において、受け入れを自粛している。コロナ禍の収束後には、法人や他の事業所、各関係機関と連携を図りながら、少しずつ地域のケア拠点としての機能に協力できることを期待したい。また、市行政や地域包括支援センター等と連携を図ることはできているものの、会議や研修に参画できる機会は少なくなっている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	特別に行っていない。問い合わせ等があれば相談支援を行う程度。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	行っていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	行っていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	×	他事業所と協働しながら行う事はできていない。系列が同じ事業所とはイベントを一緒に行う事がある。コロナ禍となってからは行っていない。	/	/	○	